

答辞

日々続く寒さの中にも、日差しの暖かさに春の訪れを感じる季節となりました。

私たち百三十名は、今日、この白樺学園高等学校を卒業します。

本日は私たちのために、そして、コロナ禍の中、卒業証書授与式を挙行して下さい、誠にありがとうございます。卒業生を代表して、心からお礼申し上げます。

今、この白樺学園で過ごした三年間を振り返ってみると、あっという間に感じます。

三年前の四月、この場所で私たちの入学式が行われました。そのときは、この白樺学園という新たな舞台で、名前もまだわからない仲間たちと始まる生活に、期待と不安を抱いていました。六月になると入学して初めての学校全体の行

事である白樺祭に向けての準備が始まりました。ステージ発表の練習やクラス展示、模擬店のための準備、そして体育祭の練習の日々が続きました。その中で私たちは、わからないことも多く、仲間たちとの間で意見が合わず、うまくいかなかったこともありました。それでも全力で取り組んでいくうちに仲間たちについて知ることができ、次第に距離も縮まっていきました。七月の白樺祭当日には、それまでの練習や準備の成果を出し切ることができました。そして、何よりも、仲間たちとの絆を深めることができ、この頃から明るく賑やかで楽しい教室になっていきました。

二年生の秋には、野球部が秋季北海道大会優勝という快挙を成し遂げました。私も吹奏楽部として応援席におり、勝利の瞬間の興奮は今でも忘れられません。この知らせは、学校内だけではなく、十勝全体も賑わせました。

また、この年は、私たちにとって高校三年間で一番大きな学校行事である修学旅行もあり、国内ではなく東南アジアのマレーシアに行きました。この旅行が初めての海外旅行となった人も

多かったと思います。私もその一人で、初めてマレーシアに行くとき、驚きと不安を隠せませんでした。実際にマレーシアへ行ってみると、マレーシアの人々は優しく、とても友好的で、抱いていた不安はなくなりました。修学旅行を通して、英語の必要性を改めて確認したと同時に、たとえば言葉の壁があっても、誠意を持って接することで、相手に自分の思いが伝わることを学びました。

この時までには、私たちの高校生活は、特に不自由もなく、充実しており、これがそのまま続くのだと思っています。

しかし、年が明け一月に入ると新型コロナウイルスが猛威を振るいました。これにより、部活動では多くの大会が中止、または内容を変えての開催となりました。そんな状況でも、コロナ収束後に向け、あきらめずに練習に取り組みました。その中で、自分がなぜこの部活の一員として活動し、何を目標としているのか、見つめ直すことができました。

三年時の初めには、長い期間の休校があり、学

校再開後も、白樺祭をはじめとして、様々な行事が中止となり、これまでの三年生と同じように、学校生活最後の一年を過ごすことはできないのだと、思い知りました。

その中で、帯広の森競技場で体育祭を開催できたことは、うれしく、また、高校生活最後の行事として、いい思い出となりました。

白樺学園に入学して様々な経験を通じて、たとえ世界的に不安定な状況に陥ったとしても、仲間たちと協力すれば、解決策を見つけることができることを学びました。この先、困難な状況に直面することがあっても、必ずこの力を生かして乗り越えていけると思っています。

在校生の皆さん、今まで私たちを支えてくれてありがとうございます。皆さんのおかげで、学校行事をよりよいものにすることができ、楽しい思い出を作ることができました。これからは、皆さんの行動の一つ一つがこの学校の基礎となっていていき、よりよい白樺学園になっていくと信じています。そして、高校生活はすぐに過ぎていってしまいます。そんな中でも全力で勉学や部

活動に取り組み、悔いの残らないようにしてください。時には思い通りに行かないこともあるかもしれません。そんな時にはそばにいる仲間たちと協力すれば、成功につなげていけることを思い出してください。

先生方、三年間、優しく、そして、時には厳しくご指導いただき、ありがとうございます。私たちが困っているときや失敗してしまったときなどに、アドバイスを下さったり、一緒に悩んで下さったりしたおかげで、問題を解決することができました。これからは、それぞれの道に進んでいきます。教えていただいたことを忘れずに、目標に向かって進んでいく中で生かしていきたいと思います。

そして、これまで育ててくれた、お父さん、お母さん。この日までに多くの迷惑をかけてきました。特に三年生になり、進路がなかなか決まらず、不安な思いをさせてしまったかもしれません。それでも私たちの意志を尊重してくれ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

これから私たちは自分で決めた道を進んで行きます。その途中で困難に直面することがあっても、この白樺学園で得た学びや思い出を胸に、日々、力強く歩み続けていきます。

最後に、白樺学園高等学校のますますのご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

二〇二一年三月一日

卒業生代表 吉田 敦登